

2008年3月期 第1四半期 業績の概況

連結業績の状況について

主要製品の売上高について

開発品の状況について

主な子会社の業績と予想について

2007年7月27日

株式会社キョーリン



2008年3月期第1四半期 決算概観(連結)

08年3月期第1四半期(連結)業績

売上は6月に新発売しました待望の新薬「ウリトス」が好調なスタートを切り、また主要製品が好調に推移すると共に、ビジネス譲渡金等により一時金収入が増加した結果、連結売上高219億円(前年比17.2%増)と前年同期比32億円の増収となりました。

利益は売上の増加等により売上総利益が約32億円増加し、販売費及び一般管理費が約8億円増加(R&D費:4億増)した結果営業利益41億円(前年比142.1%増)と前年同期比24億円の増益となりました。

08年3月期(連結)業績予想

国内新医薬品は主要製品の売上拡大と新薬「ウリトス」の発売等により連結売上高836億円(前年比8.4%増)と伸長するものの研究開発費及び販売費の増加により連結営業利益85億円(前年比1.0%増)、当期純利益50億円(前年比3.3%増)を見込みます。

単位: (百万円)	05年3月期 第1四半期	06年3月期 第1四半期	07年3月期 第1四半期	08年3月期 第1四半期	前年比
売上高	16,184	17,312	18,685	21,891	17.2%
営業利益	1,349	2,929	1,686	4,082	142.1%
経常利益	1,587	3,052	1,690	4,321	155.6%
当期純利益	1,112	1,942	782	2,600	232.5%

08年3月期 (予想)	前年比
83,600	8.4%
8,500	1.0%
9,100	5.1%
5,000	3.3%

* 06年3月期第1四半期業績までは杏林製薬(株)連結の数値、
07年3月期第1四半期以降の業績及び08年3月期予想は(株)キョーリン連結の数値を示す

2008年3月期第1四半期 業績の状況(連結)

単位:億円

	07年3月期 第1四半期 (実績)	08年3月期 第1四半期 (実績)	対前年 増減
売上高 合計	187	219	+32
◆新医薬品	156	187	+31
国内	143	175	+32
海外	13	11	▲2
◆後発 医薬品	13	13	±0
◆ヘルスケア	16	17	+1
◆その他	2	2	±0
営業利益	17	41	+24
経常利益	17	43	+26
四半期 (当期) 純利益	8	26	+18

■ 売上高	219億円	対前年比 (+32)	
●国内新医薬品	175億円	(+32)	
	07.3(1Q)実績	08.3(1Q)実績	
・キプレス	36	→ 40	(+ 4)
・ムコダイン	51	→ 53	(+ 2)
・ペンタサ	20	→ 22	(+ 2)
・ウリトス	—	→ 5	(+ 5)
●海外新医薬品	11億円	(▲ 2)	
・ガチフロキサシ	10	→ 6	(▲ 4)
* BMS社テイン販売中止(07年3月期)			
* アガン社ザイマは続伸(\$ 24MM \$ 25MM:現地売上)			
●後発医薬品	13億円	(± 0)	
●ヘルスケア	17億円	(+ 1)	
・ミルトン	5	→ 5	(± 0)
・ドクタープログラム社	5	→ 7	(+ 2)
●その他	2億円	(± 0)	
◆原価率:前年比 6.1ポイント低下 (41.0%→34.9%)			
低下要因: 自社品の新発売及び一時金収入の増加、 能代工場減価償却費の減少など			
◆研究開発費率:前年比 0.1ポイント上昇(10.3%→10.4%)			
* 19億円→23億円(約4億円増加)			
◆販管費率(除R&D費):前年比 3.6ポイント低下(39.6%→36.0%)			
* 新薬上市の初期投資等により販管費は増加したものの、 売上高の増加により販管費率は低下			
■ 営業利益	41億円	(+24)	
* 営業利益率は18.6%と9.6ポイント上昇			
■ 当期純利益	26億円	(+18)	

2008年3月期 業績の予想(連結)



健康はキョーリンの願いです。

単位:億円

	07年 3月期 (実績)	08年 3月期 (予想)	対前年 増減
売上高 合計	771	836	+65
◆新医薬品	630	673	+43
国内	572	631	+59
海外	58	42	▲16
◆後発 医薬品	57	64	+7
◆ヘルスケア	73	87	+14
◆その他	11	12	+1
営業利益	84	85	+1
経常利益	87	91	+4
当期純利益	48	50	+2

	07.3実績	08.3予想	対前年比
売上高	836億円		(+65)
国内新医薬品	631億円		(+59)
・キプレス	150	163	(+13)
・ペンタサ	80	89	(+9)
・ムコサイン	204	210	(+6)
*ウルトスについては15億円を見込む			
*ヘアパンダ・ベジ初の新薬の譲渡に関する一時金収入等を見込む			
海外新医薬品	42億円		(16)
・ガチロキソン	32	30	(2)
*アガソ社がイー(\$95MM \$100MM:現地売上)			
*導出品の契約に関する一時金収入等の減少			
後発医薬品	64億円		(+7)
ヘルスケア	87億円		(+14)
・ミルトン	21	22	(+1)
・ドクタープロダム社	28	41	(+13)
その他	12億円		(+1)
原価率...約1ポイント低下			
原価率低下要因; 自社品の新発売、一時金収入の増加 能代工場減価償却費の減少ほか			
研究開発費率...11.2% 13.2%: 2.0ポイント上昇			
*研究開発費; 86億円 110億円(24億円増)			
販管費率(除R&D費)...ほぼ横ばい			
*新薬上市による初期投資により販促費は増加するものの 売上の増加により、販管費率は横ばいを予想			
営業利益	85億円		(+1)
*営業利益率: 10.2%と0.7ポイント低下			
当期純利益	50億円		(+2)
配当	30円00銭(予想)		配当の考え方: 配当性向50%を目指す

2008年3月期第1四半期 業績の状況(連結)



(単位:百万円)

	中間期		通期		第1四半期(4月~6月)					
	06年度 実績	07年度 予想	06年度 実績	07年度 予想	06年度 実績	07年度 実績	前年差額	前年比	中間 進捗率	通期 進捗率
売上高	35,093	40,300	77,093	83,600	18,685	21,891	+3,206	17.2%	54.3%	26.2%
新医薬品	28,704	32,700	62,951	67,300	15,577	18,672	+3,094	19.9%	57.1%	27.7%
国内新医薬品	26,477	30,200	57,188	63,100	14,285	17,543	+3,257	22.8%	58.1%	27.8%
海外新医薬品	2,227	2,500	5,762	4,200	1,291	1,129	▲162	▲12.6%	45.2%	26.9%
後発医薬品	2,591	2,800	5,734	6,400	1,272	1,281	+8	0.7%	45.8%	20.0%
ヘルスケア	3,298	4,100	7,273	8,700	1,595	1,711	+115	7.2%	41.7%	19.7%
その他	499	600	1,133	1,200	239	226	▲13	▲5.4%	37.7%	18.9%
営業利益	1,940	3,100	8,413	8,500	1,686	4,082	+2,396	142.1%	131.7%	48.0%
経常利益	2,061	3,600	8,655	9,100	1,690	4,321	+2,630	155.6%	120.0%	47.5%
当期純利益	833	2,000	4,842	5,000	782	2,600	+1,818	232.5%	130.0%	52.0%

主要製品の売上高について

(単位:億円)

製品名	中間期		通期		第1四半期(4月～6月)					
	06年度実績	07年度予想	06年度実績	07年度予想	06年度実績	07年度実績	前年比	中間進捗率	通期進捗率	
国内 新医薬品	キプレス (LT受容体拮抗剤・気管支喘息治療剤)	69	73	150	163	36	40	12.1%	54.6%	24.9%
	ガチフロ(自社販売) (広範囲経口抗菌薬)	11	10	25	23	6	6	2.3%	63.7%	27.1%
	ムコダイン (気道粘液調整・粘膜正常化剤)	89	90	204	210	51	53	3.5%	58.5%	25.2%
	バクシダール (広範囲経口抗菌剤)	3	2	6	5	1	1	▲21.1%	47.2%	22.3%
	ケタス (気管支喘息・脳血管障害改善剤)	29	30	58	58	15	14	▲7.4%	47.6%	24.3%
	アプレース (胃炎・胃潰瘍治療剤)	10	10	20	19	5	5	▲10.4%	51.0%	26.4%
	ロカルトロール (活性型ビタミンD3製剤)	10	9	19	18	5	5	▲8.5%	49.2%	25.6%
	ペンタサ (潰瘍性大腸炎・クローン病治療剤)	40	44	80	89	20	22	9.0%	49.3%	24.3%
	ウリトス (過活動膀胱治療剤)	—	6	—	15	-	5	—	79.8%	32.5%
海外 新医薬品	ガチフロキサシン (バルク・ロイヤルティ含む)	18	15	32	30	10	6	▲38.3%	42.1%	21.4%
	ノルフロキサシン (バルク)	2	2	4	2	1	0	▲91.5%	3.1%	2.9%
ヘルスケア	ミルトン (哺乳ビン・乳首消毒剤)	10	11	21	22	5	5	▲4.6%	44.5%	22.0%

ガチフロキサシンはライセンサー向けのバルク売上とともに、ライセンサーの販売に応じたランニングロイヤルティを含んだ売上を計上いたしております(ノルフロキサシンはバルク売上のみ)

開発品一覧①(07年7月27日現在)

申請中

*: 前回(07年3月期)からの変更点を示す

開発段階		製品名・ 開発コード	薬効	起源	特徴	備考
国内	海外					
* 上市 (07年6月)	Ph I	ウリトス (錠)	過活動膀胱 治療薬	自社	抗コリン作用が強く、口渇等の副作用軽減が 期待される	国内: 小野薬品工業と 共同開発・共同販売
申請 (04年7月)	(メルク社 発売中)	キプレス細粒 4mg モンテルカスト	気管支喘息 治療剤	メルク社	小児(1歳~5歳)用の新規製剤	○ 剤形追加 ○ 新用量 万有製薬と共同開発
申請 (05年8月)	(メルク社 発売中)	キプレス錠 モンテルカスト	気管支喘息 治療剤	メルク社	成人: アレルギー性鼻炎 1日1回投与で、LTD4の遮断による鼻炎症 状(鼻閉、鼻漏、くしゃみ)の改善と共に、眠気 などの副作用軽減が期待できる	○ 効能追加 万有製薬と共同開発

開発品一覧②(07年7月27日現在)

POCプロジェクト及びPh II～III

*: 前回(07年3月期)からの変更点を示す

開発段階		製品名・ 開発コード	薬効	起源	特徴	備考
国内	海外					
	(ガルデルマ社 発売中)	塩酸アモロルフィン ネイルラッカー	爪白癬治療剤	自社	日本初のネイルラッカー製剤	
Ph III (07年2月)	(メルク社 Ph III)	モンテルカスト (注射剤)	気管支喘息 治療剤	メルク社	成人: 気管支喘息 剤形追加(注射剤)	万有製薬と共同開発
	Ph II (04年10月)	KRP-204 (錠)	抗肥満剤	日清製粉	選択性の高いβ3受容体作動薬。 従来のβ3作動薬に比べて心への影響が少なく、 肥満を改善することが期待される	日清製粉グループ 日清ファルマと共同開発
Ph II (07年3月)		KRP-204 (錠)	過活動膀胱 治療剤	日清製粉	β3受容体作動薬 膀胱におけるβ3受容体の活性化により膀胱を弛緩 させ蓄尿機能を高めることが期待される	日清製粉グループ 日清ファルマと共同開発
Ph II (05年3月)	(エーザイ Ph III)	AS-3201 (錠)	糖尿病合併症 治療剤	大日本 住友製薬	アルドース還元酵素を強力に阻害することにより細胞 内のソルビトール蓄積を抑制し、糖尿病性神経障害を 改善する	大日本住友製薬と 共同開発(国内のみ)
	Ph II (04年6月)	KRP-101 (錠)	脂質代謝改善/ 糖尿病治療剤	自社	PPARαのagonist。中性脂肪等脂質代謝改善作用に 加えて、糖尿病に対する有効性が期待される	
Ph I (06年7月)	Ph I (06年3月)	KRP-104	糖尿病治療剤	自社	DPPIV阻害剤。インスリン分泌ホルモンの分解を抑え ることにより血糖低下作用を示す。副作用の発現が 少ない糖尿病治療が期待される	
	Ph I 準備中	KRP-203	臓器移植、 自己免疫疾患	自社	S1P受容体アゴニスト。新規メカニズムを有する免疫 調整剤。既存の免疫抑制剤に比べて安全性が高く、 かつ優れた併用効果が期待される	ノバルティス社と ライセンス契約(06年2月)
	前臨床	KRP-105	脂質代謝改善	自社	選択性の高いPPARα agonist。KRP-101よりも さらにPPARα受容体に対して選択性が高い。脂質 改善作用に加え、アディポネクチンの増加、レプチンの 減少、体重増加抑制作用などが動物実験で確認されて おり、新たな脂質改善剤として期待される	

開発品一覧③(07年7月27日現在)

導出品の状況

*: 前回(07年3月期)からの変更点を示す

製品名・ 開発コード	導出先・ 共同研究先	開発段階	薬効	起源	備考
未定	米国 メルク社	—	合成抗菌剤	自社 米国メルク社	・共同研究 ・独占的ライセンスに関する契約締結 (04年7月)
アルファガン/ アルファガンP	千寿製薬	国内Ph II (06年4月)	緑内障治療薬	米国 アラガン社	・アラガン社より導入 (ガチフロキサシン点眼液のクロスライセンス) ・千寿製薬に導出(04年5月) ・07年3月 国内Ph II 終了
ケタス	米国 メディシノバ社	海外Ph II (05年8月)	脳血管障害治療薬	自社	・多発性硬化症の適応での日本、中国、 韓国、台湾を除く全世界における独占的 な開発、製造販売権を供与(04年10月) ・07年3月途中経過を発表
KCA-757	米国 メディシノバ社	海外Ph III (気管支喘息: 06年11月) 海外Ph II/III (間質性膀胱炎: 05年5月)	気管支喘息治療薬 間質性膀胱炎治療薬	自社	・日本、中国、韓国、台湾を除く全世界に おける独占的な開発、販売権を供与 ・間質性膀胱炎:07年1月に結果を公表、 開発を中断 * 気管支喘息:海外Ph III一旦停止
KRP-203	スイス ノバルティス社	海外Ph I 準備中	臓器移植、 自己免疫疾患	自社	・移植用の免疫調整剤として、全世界の開発及び 販売権、自己免疫疾患及びその他の疾患用剤と して、日本、中国、韓国、台湾を除く全世界の 開発及び販売権(なお、炎症性腸疾患用剤と しては、全世界の権利を留保している)を供与 (06年2月)

主な子会社の業績と予想について

(単位：億円)

杏林製薬	07年3月期 実績	08年3月期 予想	07年3月期 第1四半期実績	08年3月期 第1四半期実績
売上高	661	706	164	193
営業利益	76	73	16	43
当期純利益	47	45	10	27

キョーリンリメディオ	07年1月期 実績	08年1月期 予想	07年1月期 第1四半期実績	08年1月期 第1四半期実績
売上高	69	76	16	15
営業利益	2	4	1	▲2
当期純利益	0	1	0	▲2

ドクタープログラム	07年1月期 実績	08年1月期 予想	07年1月期 第1四半期実績	08年1月期 第1四半期実績
売上高	28	41	5	7
営業利益	3	4	0	▲1
当期純利益	2	2	0	▲1

* キョーリンリメディオ、ドクタープログラムは1月決算、杏林製薬は3月決算です。